

# 事業のタネシート

活動地域・団体名：富士市CNFプラットフォーム

## 事業名称1：富士市版キャリア教育事業

あらすじ

「富士市以外の人材からもオファーがあり、若者に選ばれるまち」に向けて、ものづくり産業のイメージが悪く、魅力が伝わっていないことから、地域内のものづくり企業等が協働で、「富士市版キャリア教育」事業の開発を行います。この事業を通じて、製造業を中心とした就労環境、富士市の交通利便性や自然環境等の住みやすさを活かし、地域内外の若年層にものづくり企業の魅力と、富士市を認知してもらい、産業界との交流を図ります。

地域の企業と若年層のパートナーシップの形成が起こることで、人材の流出を防ぎ、新しい人材を呼び込むことにつながり、新しい技術の導入や生産プロセスの確立などが生じ、DX化への対応などの課題を解消および産業構造の転換につながります。

ストーリー

SDGsネイティブと呼ばれるような若年層にとって、大量生産・大量消費の時代を支えてきた現在のものづくり産業のイメージは悪く、また、労働という意味でも、きつい・汚いなど、いい印象を持たれません。作られているモノの価値と、これからの社会の担い手である彼らの価値観にギャップがあります。このギャップに気づき、受け止め、対応していくことは、企業が抱える「人材の確保・育成」といった深刻な課題を解消するためだけでなく、私たちの生活に欠かせない日用品(紙製品)の持続的な生産にも必要な視点で、企業が求める人材と若者が働きたいと思う職業・職種との乖離に気づき、お互いの価値観をすりあわせていくことが必要です。

そこで、若年層をターゲットにものづくり企業の魅力や情報を発信し、ものづくりの技術と可能性を伝えるために、企業×若者による「ものづくりプログラム」を通して、お互いの考えや価値観を共有し、若者に選ばれる産業のまちを目指します。

若年層にとっては、ものづくりの本質を知るとともに、自分たちの価値やアイデアが企業に採用される嬉しさや働いてみたいと思う意識が醸成される機会となり、企業にとっては、若年層の価値感を吸収することで、新しい事業展開が図れることや、プログラムを検討する過程を通じて、真に必要な人材像の把握や自社の体制・キャリア整備等の改革につながることから、企業と若年層との交流やパートナーシップ構築を促進する取組を実施していきます。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	富士市以外の人材からもオファーがあり、若者に選ばれるまち	・取組にマッチする若者・学生のレスポンスがあるか
②課題	若年層の流出、労働力としての人材不足、高い離職率、技術継承者の不足、DX化等新しい技術へ対応できていない	・若年層の求職希望（価値観やキャリア等）とものづくり企業側の人材の確保、育成に向けたギャップの認識とその解消に向けた変革
③なぜこの事業をやるのか（Why）	ものづくり(製造業)から連想されるイメージが悪く、ものづくりの魅力が若い世代に刺さっていない。また、これらを解消する情報発信力が弱い。	
④地域資源	ものづくり産業を中心とした高い技術、就労環境、高速道路や新幹線等の交通の利便性・大都市圏からのアクセスの良さ、自然環境の良さや住みやすさ	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	域内外の若者や学生を対象に、ものづくり企業の魅力・情報を発信するとともに、ものづくり企業と学生等とがコラボレーションした教育プログラムや授業機会の提供、域内外における官民共同での合同企業ガイダンスを開催し、これまで知らない／知ろうとしてもらえなかった富士市の魅力を認知してもらう。 また、企業間で人材確保や育成に関する課題の共有や好事例を認識する機会を設け、横展開や自社への採用などを進める。	
⑥担い手（Who）	域内のものづくり企業、IT関連企業、産業支援機関、金融機関、行政	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	例) 富士市を知る機会→新しい価値や技術の提案→企業と若者との交流の促進、提案の採用→ものづくり企業の魅力の認知→就職希望、域外からの技術提供→定住・関係人口の増加 例) 自社の技術や製品のPRの機会→若年層へのアプローチ増→若者の価値観を把握する機会→求める人材像とのギャップの把握・解消、新製品の開発→自社の体制や事業の再構築、IoTやDX技術の導入→雇用の創出・人材の確保・生産性の向上→離職率の改善・技術の継承・産業活性化	・モデル事業の構築に向けて先導するものづくり企業 ・産業支援機関や金融機関等によるパートナーシップ形成の後押し ・ものづくり企業との関連がある大学等高等教育機関
⑧事業で生じる成果	ものづくり企業と若者とのパートナーシップ形成による人材流入および人材流出の抑制、新しい技術の導入 ものづくり企業の人材確保、育成に向けた意識改革	

事業名称2：「SDGs×ものづくり」協業ビジネス		
あらすじ		
<p>「新しさを知り古きを変革・分野や業界を超える横断型の企業間等の連携」の実現に向けた課題として、既存の産業は分野や業界で閉じており、これまでのビジネススタイルからの変革や脱却への意識が希薄であることがあげられます。今のままでは、社会の変化に取り残され、最終的には産業として立ち行かなくなることが予想されるため、地域内のもづくり企業等が「SDGs×ものづくり」の視点に立った協業ビジネスを行います。これは、地域内企業の持つ強みの技術や多種多様な企業等が、お互いに抱える課題や取組に関する共通認識を持つ機会を設け、マッチングや支援制度を活用した新製品・新サービスの創出などを通じ、持続可能なビジネスモデルの構築を進めるものです。</p> <p>この事業を行うことで、企業間等における互いの課題や強み、ものづくりにかける想いなどを共有化することによるパートナーシップが形成され、連携による新たなビジネスモデルやサプライチェーンの構築、環境と産業の両立に向けた取組が加速され、一つの組織や企業では対応できないことや産学金官等の地域ぐるみの情報共有や連携がないことを解消します。</p>		
ストーリー		
<p>成熟した産業・業界では、同じ分野や業種の中での交流や既存のサプライチェーンにおける取引や関係はあるものの、短期的な利益につながるイメージが持ちにくい異業種や外部との接点が少なく、産業・行政・地域間等における情報共有や連携、それぞれの抱える課題や強みの見える化ができていない状況です。本事業を通じて、SDGsや脱炭素社会への対応、技術継承と人材確保など、個別の企業・事業者での取組に限界を感じていることもわかってきました。</p> <p>そこで、富士市の強みである様々なものづくり産業の立地を活かし、SDGsに関する取組を切り口にした異分野・異業種間の交流・パートナーシップ形成の機会を創出することで、地域内のもづくり企業の新しいことへのチャレンジや時代の潮流にあったビジネス展開を図ります。更に、外部からの技術や人材の流入を掛け合わせることで、当地がものづくりフロンティア拠点となることを目指し、定住・関係人口の増加や企業誘致等を加速します。</p>		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	新しさを知り古きを変革・分野や業界を超える横断型の企業間等の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横断的な産業間の連携に対し、関係者の協力体制が構築できるか</li> <li>・既存事業からの変革や脱却にチャレンジする意欲や体力</li> <li>・コストと環境や新技術の導入などによる新たな価値との天秤、ビジネスとして成り立つかの不安</li> </ul>
②課題	一つの組織や企業では対応できない、異分野・異業種との接点がない、産業・行政・地域ぐるみの情報共有や連携がない	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	分野や業界でビジネスが閉じていて、新しいことへのチャレンジや発想の転換、ビジネスモデルの構築やSDGsの達成に資する取組等への意識が希薄	
④地域資源	既存産業の固有の技術、製紙産業をはじめとするバランスのよい産業構成、高速道路や新幹線等の交通の利便性、CNFなどの植物由来の新素材への着眼	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	分野や業界、産業に関わる幅広い世代を対象に、横断的に共通認識を持つ機会、異分野・異業種の連携によるビジネス創出に向けたマッチングや支援制度を運用し、域内企業に対し、持続可能なビジネスモデルの構築を進める。	
⑥担い手（Who）	域内のもづくり企業、環境・エネルギー関連事業者、IT関連企業、産業支援機関、金融機関、行政	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	<p>例）横断的な交流の機会→各々が抱える課題や強み、想いなどを認識・共有→パートナーシップ形成→協業による新たなビジネスの創出→産業・経済の活性化</p> <p>例）ものづくり企業×IT関連企業→DX導入による生産性の向上・新製品やサービスの開発→生産体系の変革→IT人材等の流入・登用→産業活性化、定住・関係人口の増加</p> <p>例）製紙企業×自動車関連企業→植物由来の新素材CNFを活用した製品開発→化石資源の使用削減・燃費の向上・リサイクル→新たなサプライチェーンによるビジネス創出、CO2削減→産業と環境の両立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル事業の構築に向けて先導するものづくり企業</li> <li>・産業支援機関や金融機関等によるパートナーシップ形成の後押し</li> </ul>
⑧事業で生じる成果	<p>異分野・異業種企業同士の対話・協力体制</p> <p>新たなビジネスモデル、サプライチェーンの構築</p> <p>事業の持続可能性や環境と産業の両立の追求</p>	

事業名称3：「ものづくり×カーボンニュートラル」モデル構築プロジェクト		
あらすじ		
<p>脱炭素経営の確立による企業活動の持続と拡大にむけて、市内中小企業の脱炭素化への取り組みが進んでいないことを踏まえ、行政や事業者等がカーボンニュートラルモデル構築に向けた勉強会などを通じ、パートナーシップを結ぶ。これは、市内中小企業の脱炭素化への取り組みを後押しするためのものである。この事業により、地域内での脱炭素化への取組について情報共有と支援が一体となったパートナーシップを構築し、企業の脱炭素化への具体的な取り組みが進むことで、地域企業における脱炭素経営、サステナブル経営へのシフトがおり、ひいては富士市の脱炭素化、ローカルSDGsの達成を実現する。</p>		
ストーリー		
<p>近年、地球温暖化の進行とそれに起因する災害の激甚化が顕著である。これに伴い、脱炭素社会の実現にむけた動きが活発化している。国内でも、温室効果ガス削減に向けた取組は官民間問わず様々な形で行われている。こうした流れの中、産業界における潮流は二極化している。事業の転換や設備投資等によって、脱炭素社会の実現に向けた取組がすでに着々と行っている企業がある一方、特に地方では動きが鈍い面がある。静岡経済研究所が令和3年12月に実施した調査によれば、県内企業でも80%以上の企業が脱炭素化に取り組む必要があると認識しているものの、その内「積極的に取り組みたい」とした企業は約19%にとどまっている。脱炭素化の取組について、県内企業は決して積極的とは言えない。しかしながら、すでにサプライチェーン全体での脱炭素への取組を進めている企業もあり、また頻発する災害への対応が喫緊の課題となっているなかで、事業活動の持続可能性を考える上で企業の脱炭素化の取組はもはや大前提といつてよい。</p> <p>こうしたなかで、特に脱炭素化への取組への意欲はありながらも、具体的な取り組みに結びついていない市内中小事業者を対象に、脱炭素化への向けた初めの一歩を踏み出してもらうため、行政や他の地域企業などとのパートナーシップ形成の機会を創出する。また、パートナーシップを通じてビジネスを環境化し、企業としての利益が脱炭素をはじめとする環境への取り組みに資するような好循環を形成する。これにより、市内事業者の脱炭素化への取組が促進され、富士市が目指す2050年までのゼロカーボンシティ達成が実現に近づく。また、脱炭素化への取り組みを通じてエネルギーの地産地消等が促進されることで、災害に強い産業都市を実現する。</p>		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	脱炭素経営の確立による企業活動の持続と拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の環境への取り組みについての意識</li> <li>・金銭面での支援策</li> </ul>
②課題	創業に必要なエネルギーの確保、CO2排出量の把握、再エネ導入の遅れ、災害時でもつぶれない産業システムの構築、具体的モデルケースの不在、設備投資の資金調達	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	地域企業における脱炭素経営へのシフトを推進するため	
④地域資源	既存の中小企業。特に、設備更新や製造工程等に環境面での改善の余地が残っている企業。環境アドバイザー、エコアクション取得企業	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	協議会や勉強会を通じて、企業のできる脱炭素への取り組みを認知してもらい、パートナーシップを通じた働きかけによって、具体的に脱炭素化の方向へと企業を動かす	
⑥担い手（Who）	地域企業、エネルギー事業者、環境関連団体、地域金融機関	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	事業者・行政等のコミュニケーション→信頼感の造成・情報の横連携→各主体へのフィードバック→具体的な取組の発案→パートナーシップ間での支援→具体的な取り組みの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境関連団体</li> <li>・すでに脱炭素化へ向け積極的に取り組んでいる同業他社</li> <li>・金融機関</li> </ul>
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業の脱炭素化の取組の促進</li> <li>地域の災害レジリエンス向上</li> <li>富士市版脱炭素経営モデルの作成</li> <li>富士市としての温室効果ガス削減目標の達成</li> </ul>	